

豚コレラ 殺処分耐えきれぬ

豚コレラが昨年9月に発生して、間もなく11カ月になる。被害は終息のめどが立たず、農家に不安が高まっている。日本農業新聞は名古屋市で、殺処分を経験した農家4人と識者で座談会を開き、現状の受け止めと今後必要な対策について思いを語ってもらった。(文中敬称略) ▶1面参照

渦中の生産者座談会

ワクチン限定使用を瓜生さん イノシシ駆逐待てぬ 橋枝さん

司会 必死の防疫作業が続いていますが、今必要な対策は何だと思えますか。

橋枝 再開して困ったのは「豚を撮影したい」という申し出がテレビ局からあったこと。この局面でそれを言うのか。この程度の認識では、もう

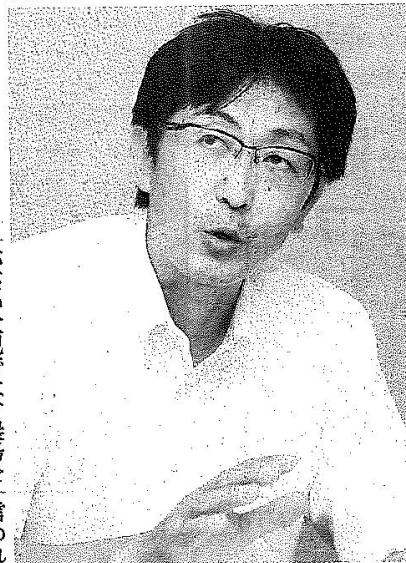
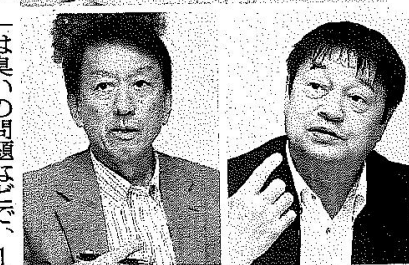
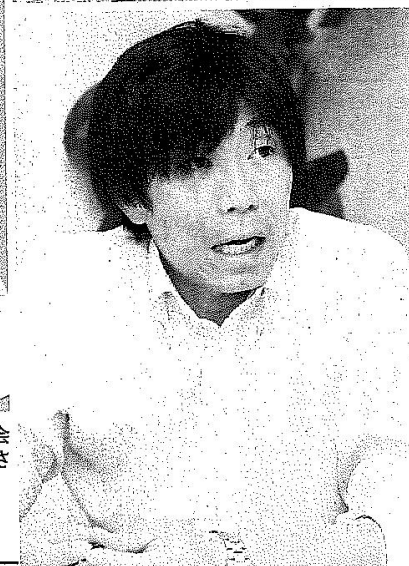
瓜生 必死の防疫作業が続いていますが、今必要な対策は何だと思えますか。

橋枝 再開して困ったのは「豚を撮影したい」という申し出がテレビ局からあったこと。この局面でそれを言うのか。この程度の認識では、もう

司会 必死の防疫作業が続いていますが、今必要な対策は何だと思えますか。

橋枝 再開して困ったのは「豚を撮影したい」という申し出がテレビ局からあったこと。この局面でそれを言うのか。この程度の認識では、もう

- 出席者**
- ▽阿部浩明さん(52) 岐阜県各務原市、殺処分2500頭
 - ▽瓜生陽一さん(53) 愛知県田原市、同3000頭
 - ▽オオザイバー
 - ▽岐阜県養豚協会・吉野毅会長
 - ▽日本養豚開業獣医師協会・呉克昌氏
 - ▽橋枝雄大さん(36) 岐阜県山県市、2農場計同1万1000頭
 - ▽愛知県豊田
 - ▽伊ノシシ
 - ▽日本養豚開業獣医師協会・呉克昌氏
 - ▽橋枝雄大さん(36) 岐阜県山県市、2農場計同1万1000頭
 - ▽愛知県豊田
 - ▽伊ノシシ
 - ▽橋枝雄大さん(36) 岐阜県山県市、2農場計同1万1000頭
 - ▽愛知県豊田
 - ▽伊ノシシ



豚コレラの現状や対策について語る座談会出席者。(左列上から)阿部さん、鋤柄さん、(右列上から)瓜生さん、橋枝さん、(下段左から)呉代表、吉野会長(名古屋市で)

畜舎に行くのが怖い

阿部さん

司会 豚コレラ発生が今の現状をどう見ていますか。

橋枝 私のところは2カ所出てしまった。繁栄農場で6月に発生、自分が肥育農場に行くことがリスクになった。6月には肥育農場でも発生。岐阜県の農家は皆、精神が壊れている状態だ。

阿部 1月の発生で、獣医師からは「これだけ防疫しているのに」と言われた。殺処分から2週間くらい、豚の鳴き声や糞の臭いが怖く、畜舎に行くのが怖かった。鬱うつみたいな状態。後継者がいてくれたから耐えられると思う。

瓜生 1件目が岐阜だっただけで、どこでも出る恐れがあった。

吉野 国家防疫の、水際対策の面で語られるべきことなのに、まるで岐阜県が犯罪者扱いされている。憤りを感じる。

呉 イノシシが広範囲に広がってしまっている。危機感がある。

阿部さん

高い状況では、農場を守り抜くのは難しい。

瓜生 イノシシは1年で、長野まで広がった。いったん収まった田原(市)も安全とは言いがけない。このままだと関東まで広がってしまうという危機感がある。

阿部さん

言われていい思いはしなかった。自分でブランド化してきた。発生してからも「人にはうつらないから」という声がある。これだけ被害が出たことで、もう一度力を出して、再開に踏み出すことができた。

阿部 再開のハードルとまずい。

阿部さん

再開のハードルとまずい。

再感染なら経営断念 鋤柄さん

司会 経営再開への展望は。

鋤柄 うちの県内で最初に発生して、今月18日に8頭を入れて、最初に経営を再開した。消毒が1トを2カ所に設置し、

従業員の動線を改善して衛生対策を整えた。陽性の野生イノシシは近くにいないが、最初に再感染の恐れもある。そうなれば、家族には「養豚をやめる」と話している。

橋枝 農家は誰でも思うところがある。2度目はないと。今は仕事がないのでアルバイトする人は6月で辞めてもらい、4月からの新入社員も2人、今月で退職になる。従業員10人の生活もあるし、何とか再開したいが、周辺には陽性のイノシシがうようよしている。

鋤柄 私は農家の8代目。養豚は父の代から。小さい頃から豚屋と

再開のハードルとまずい。

者には届ける責任を果したい。

阿部 豚が本当にだから飼っている。でも、防疫作業中は夜に眠れない。夜も眠れない。ちよとよく分かる。自分で飼っていないが、たどりで出た豚を見てしまう。

阿部 豚のワクチン肉への風評被害が出ても、それは一時ではないか。それも、殺処分がずっといる方がイメージは良くない。

鋤柄 同じ殺処分イノシシを何とかしたい。

呉 国が守るべき生産者だと強く思う。手をこまねいておいてはならない。安心できる豚肉を生産するために、ナスの特徴を共有し、それをしっかりすればいいです」と言わなければならない。

橋枝 再感染は怖い。豚を見るのも怖く、このまま、いつか再開したい」と言っている。送業者が地域になる。10年後に陽性のシシがいなくなると再開できるのかなという意味がない。

吉野 養豚の不毛になりかねない。日には、名古屋、岐阜、愛知、静岡、長野の5県で生産者が増えて「豚コレラ」を聞く。産業者を守るため、産業者を集約し、